

2024年度 日本インターンシップ学会 東日本支部 第1回研究会報告

報告者 松坂 暢浩 (東日本支部 支部長)
井崎 美鶴子 (東日本支部 運営委員)

「大学および学生とインターンシップ受入先とをつなぐ中間支援組織の取組」をテーマとした2024年度 第1回研究会(2025年2月23日(日))を、対面・オンラインのハイブリット形式にて実施いたしました。当日は、全国から45名の大学教職員、民間企業、NPO法人など様々な機関でインターンシップに関わる皆様に参加いただきました。

はじめに、関東エリアで活躍する中間支援組織からの事例発表が行われました。まず、NPO法人ブランディングポート代表理事の安藤奏会員と、野島朋子会員より、長期実践型インターンシップ「B-CAMP」の事例と、専属メンターによる内省支援について発表いただきました。課題解決型プロジェクトを専門のコーディネーターが支援し、学生の内省支援を専属メンターが2週間に一度メンタリングを行うなど、6ヶ月間の長期実践型インターンシップにおける具体的な支援内容について説明いただきました。また、専属メンターの内省支援を通じて学生にどのような変化が起きているのか、調査結果を説明いただきました。効果的な内省手法の体系化、専属メンター自身の成長、キャリアレディネスとの関連性など、今後の調査・研究にむけた方向性についても共有いただきました。

続いて、Mirai Ship PROJECT 主宰 眞野日悠太会員(東日本支部運営委員)より、3年連続で参加学生の80%以上が「自己分析ができた」と回答した取り組みとして、受け入れ企業と学生満足度がともに高い支援事例を紹介いただきました。自社開発のアセスメントツールを活用し、学生自身の特性を正しく理解し、特性からチームでの役割責任を明確にした上で、当事者意識をつくること。チームメンバー同士が褒められる点(good)と改善点(more)を本音でフィードバックし合うことによって、自身の長所と短所を自覚できること。また、インターンシップの中で成功・失敗体験をすることによる仕事理解や自己理解が深まるプロセスについて、詳しく説明いただきました。

後半は、Mirai Ship PROJECTに参加した白石彩絵氏(目白大学4年生)から、インターンシップを通じた学びや気づき、自身の成長について発表があった後、支部長の松坂暢浩会員(山形大学教授)がコーディネーターとなり、事例発表者と学生とのパネルディスカッションを行いました。参加者からは、「学生のキャリア自律を養うためには、自己理解の他にどのようなことが必要か」「中間支援組織との連携方法」「学生の成長とメンターの効果」等について質疑応答があり、活発なディスカッションが行われました。パネルディスカッションを通じて、中間支援組織と大学が連携する上で、まずは、相談から始めてみるのが重要だと感じました。

最後に、吉本圭一会長より今後のインターンシップ実践と研究にむけたメッセージをいただき、北海道支部長の高橋秀幸会員(北海道武蔵女子短期大学)より次回の全国大会の告知とご挨拶をいただき、閉会いたしました。次回の第2回支部研究会では、関東エリア以外で活躍する中間支援組織の方をお招きし、オンラインでの開催を検討しています。あらためて詳細をご案内いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

